

「食と農の科学館」は、農研機構の研究や開発技術を、農業関係者・企業・消費者・学生など様々な立場の方にご紹介する施設です。

このたび、1995年の開館以来、初めての全面改装を行い、2026年3月10日（火）にリニューアルオープンしました。映像や体験型展示を通して、進化する農業研究をわかりやすく、そして楽しく知ることができる内容となっています。どなたでも入館できますので、皆さまのご来館をお待ちしております。

（入場無料、10名様以上の団体はご予約をお願いいたします）。

▽食と農の科学館 ウェブサイト▽ <https://www.naro.go.jp/tarh/index.html>

☆食育に関する意識調査の結果を公表

農林水産省は、食育に関する国民の意識を把握し、今後の食育推進施策の参考とするために意識調査を実施し、令和8年3月に「食育に関する意識調査報告書」を公表しました。

詳細はこちら▼

<https://www.maff.go.jp/j/syokuiku/ishiki.html>

◆ 4 ◆ 2026年度の競争的研究資金について

【研究開発関連】

■ 省庁等

☆経済産業省：「令和8年度 成長型中小企業等研究開発支援事業」

☆農林水産省（技術会議事務局）：「令和8年度放射性物質測定調査委託事業」

■ 民間等

☆一般財団法人金森財団：「2026年度研究助成」

☆公益財団法人関西エネルギー・リサイクル科学研究振興財団：「2026年度研究助成」

2026年度の競争的研究資金については東海生研ホームページの「NEWS」欄に最新情報を掲載していますのでご覧ください。 <https://www.biotech-tokai.jp/>

◆ 5 ◆ その他の情報

(1) 新技術情報

☆害虫防除関係

ドローンによるスクミリングガイ被害予測に基づく省力的な防除システムを開発

ー被害予測マップ自動作成と薬剤のスポット散布ー

農研機構は、スクミリングガイによる水稲被害の発生予測マップを自動作成し、そのマップに基づいて薬剤をスポット散布できるドローン防除システムを開発しました。スクミリングガイは、主に九州から関東までの広範囲に生息しており、水稲の初期生育期に水深が深い

エリアで食害が発生しやすくなります。本成果により、食害が予測されるエリアのみに薬剤を散布することで、田植え後の農繁期において省力的かつ効率的にスクミリンゴガイの被害を軽減できます。みどりの食料システム戦略が掲げる 2030 年目標のうち化学農薬使用量（リスク換算）の 10%低減にも貢献します。

概要 スクミリンゴガイは淡水性の巻き貝で、植物防疫法に基づく指定有害動植物に指定されています。水温が 17℃以上で活動し、水稲が 5 葉期になるまでの約 2 週間(田植え後)に、水深が 4cm 以上の条件下で水稲苗への食害が発生しやすくなります。その生息地域は西南暖地を中心とした西日本から、中部・東海・関東地域であり、近年の温暖化に伴って発生面積が拡大するとともに、水稲への被害が顕著になっています。農家の方は降雨による水深増加で被害が発生すると分かっているにもかかわらず、防除適期は忙しい田植えの時期と重なるため十分な散布時間の確保が難しく、慣行の手散布・背負動噴などによらない省力的な防除技術の開発が求められていました。また、ドローン散布は省力的ですが、薬剤をほ場全面に散布する場合は薬剤コストが高く、省力と同時に散布薬剤の低減が求められていました。

そこで農研機構は、ドローンで事前に撮影した空撮画像からは場の高低差を検出することでスクミリンゴガイによる水稲被害エリアを予測しました。この予測結果に基づき、被害が見込まれるエリアのみに薬剤を散布することで、薬剤の使用量を抑えつつ被害を低減できる省力的な防除システムを開発しました。この技術の現地実証試験では全面散布の約半分の薬剤で、ほぼ全面散布と同等にスクミリンゴガイ被害を抑制することができました。

本システムは、スクミリンゴガイの被害予測アルゴリズム、被害予測エリアを図示する「自動マップ化アプリ」、および薬剤を可変散布するドローンで構成されています。「自動マップ化アプリ」にドローンの空撮画像をアップロードすると、被害予測マップが自動で作成され、ドローンに入力することで、対象エリアのみに薬剤を散布できます。

https://www.naro.go.jp/publicity_report/press/laboratory/karc/172361.html

☆獣害防除関係

防草シート上で中型動物用(アライグマ等)侵入防止柵の効果を発揮する技術

中型動物用侵入防止柵「楽らくんライト」に、アース線を追加することで、防草シート上で使用が可能となり、草管理労力を軽減することができる。

[背景・ねらい]

中型動物(アライグマ等)用侵入防止柵「楽らくんライト」は侵入防止効果が高いが、県内の農業者からは繁忙期の草管理に手が回らないため導入でないという意見がある。「楽らくんライト」の下に防草シートを敷設することで草管理労力を軽減できるが、防草シート上で獣が電気線に触れても十分な電気ショックを与えることができない。そこで、防草シートを敷設した場合でも侵入防止効果が発揮できるよう技術開発を行う。

[成果の内容・特徴]

1. 「楽らくんライト」の下に防草シートを敷き、アース線を電気線と防風ネットの間に

追加する。

アース線は電気線の4cm下方、FRPポールの農地側を通るように設置することで、アライグマが電気線を押し下げた際、電気線とアース線が接触することを回避できる。

2. アライグマが柵を乗り越えようとする際、前足で電気線とアース線を同時に触ることにより十分な電気ショックを与えることができる。
3. アライグマなどによりアース線が押し下げられ電気線とアース線の間が大きく開いた場合感電せずに侵入することがあるため、結束バンドで電気線とアース線の間隔が広がらないよう設置する。
4. 防草シートは圃地の状況や費用、求める草管理労力の軽減程度等を踏まえて幅や種類を選択する。

[成果の活用面・留意点]

1. 定期的な柵の見回りを行い、電圧、ネットの破れや隙間が無い、電気線やネットの高さが下がっていないかなどの確認を行う。
2. 電気ショックによる忌避学習効果を維持するため設置期間中は常に通電する。栽培期間外など電気線を通電しない場合は、柵の撤去または、防風ネットや電気線等の高さを地面まで下げておく。
3. 防風ネット下部からの潜り込みがある場合、防草シート押さえの間隔を25cmにする、または、防風ネット下部の裾を防草シートで覆うなどにより対策をとる。

三重県農業研究所・地域連携研究課

令和5年度三重農研成果情報 普及成果

<https://www.pref.mie.lg.jp/nougi/hp/74882027005.htm>

.....

編集後記

春本番の暖かい気持ちのいい日を迎えて2026年度が始まりました。東海生研ではイベント情報等の最新情報を提供してまいります。今年度もセミナーやアグリビジネス創出フェアなどのイベントを企画していますので引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

===== 《メールマガジンに関するお問い合わせは》 =====

特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会 中山・道村

TEL&FAX : 052-789-4586

E-mail : bio-npo2*y4.dion.ne.jp (*を@に書き換えてください)

URL : <https://www.biotech-tokai.jp/>

東海生研のメルマガ配信の登録(無料)のご案内

<https://www.biotech-tokai.jp/ezine-reg>